

No. 496【2022年3月11日配信】

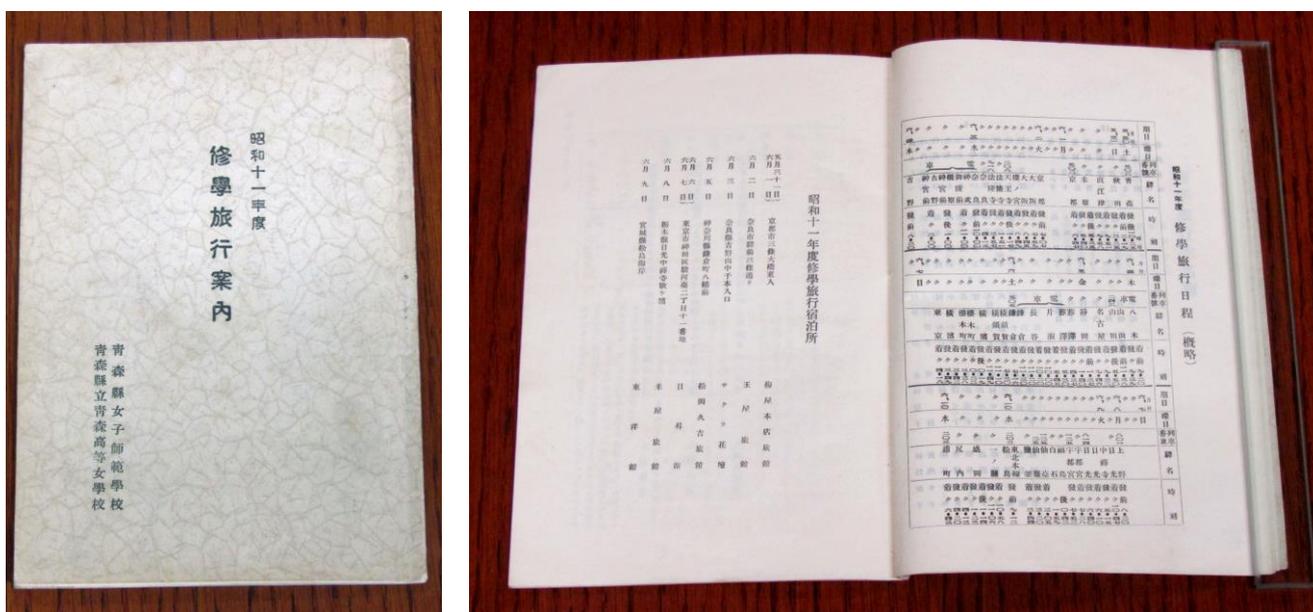
青森県女子師範学校・青森県立青森高等女学校の修学旅行(担当:鈴木美香)

こんにちは!歴史資料室の鈴木です。

市民図書館の臨時休館に伴い、歴史資料室の館内展示をしばらくお休みしていましたが、1日より再開しました。そこで今回は、7階エントランスに展示しています青森県女子師範学校と青森県立青森高等女学校(以下、青女師・青高女)の『昭和十一年度 修学旅行案内』という資料をご紹介します。

この2つの学校は、現在のリンクステーションホール青森(青森市文化会館)の所にあった校舎に併置されていました。当時の青女師の最終学年は19~21歳、青高女は16~18歳といくらか年齢差がありましたが、この頃は修学旅行を合同で行っていたようです。

では、この年の修学旅行はどのようなものだったのでしょうか。



『昭和十一年度 修学旅行案内』(歴史資料室蔵)

昭和11年(1936)5月30日の夜、青女師および青高女の生徒130人と職員6人は、青森駅を午後10時20分に出発する列車に乗り込みました。興奮で眠れない生徒たちを乗せ、列車は秋田・新潟経由で一昼夜走り、翌31日の午後6時47分に京都に到着しました。

まず初めは京都に2泊し、清水寺・鹿苑寺(金閣寺)・渡月橋といった名所を巡ります。6月2日は大阪・奈良を見学し、奈良駅前の旅館に宿泊。3日は神武天皇陵・橿原神宮など皇室ゆかりの地を訪れ、吉野山中の桜の名所に宿泊。4日は伊勢神宮に参詣し、伊勢から列車に乗り車中泊。5日は鎌倉を見学して宿泊。6日は横須賀・横浜を見学後、いよいよ生徒たちが一番楽しみにしていた憧れの東京に到着しました。東京には2泊し、8日は東北本線で北へ向かいます。日光を見学して中禅寺湖歌ヶ浜に泊まり、9日は松島に宿泊。そして、6月10日の午後6時43分に浦町駅に到着し、11日間の長い修学旅行を終えたのでした。

青高女の後身校である県立青森高等学校の『青森高校百年史』(2003年)によれば、女学校の修学旅行は、女子が親元を離れて旅行することに社会の理解が得られにくかったことから、男子の中学校に比べて普及が遅かったそうです。青高女も、明治45年(1912)の修学旅行は梵珠山・弘前方面とまだ近距離でした。大正4年(1915)になると、松島・仙台方面へ宿泊を伴う修学旅行が初めて実施され、翌5年には仙台・日光・東京方面に8日間となりました。

それに対し、師範学校は修学旅行の立案や実施についても学ぶことが必要であったため、女子の学校であっても比較的早い時期から実施されたのだそうです。大正3年に行われた青女師の最初の修学旅行は東京方面に10日間、同5年は東京・奈良・京都方面に14日間でした。

しかし、昭和15年6月に修学旅行の制限が文部省から通牒されたため、この年に他校と合同で行った聖地巡礼修学旅行(櫃原神宮・伊勢神宮参拝)が、青高女の戦前最後の修学旅行となりました。



青森県女子師範学校・正門・青森県立青森高等女学校
(青森県所蔵県史編さん資料)